

平成21年6月1日現在

研究種目：基盤研究 (B)
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18401045
 研究課題名 (和文) アフリカとユーラシアに展開する宗教と商業のネットワークに関する歴史人類学的研究
 研究課題名 (英文) A Histo-anthropological Study of the Interactive Relation between Religious and Commercial Networks in Africa and Eurasia
 研究代表者
 三島 禎子 (MISHIMA TEIKO)
 国立民族学博物館・民族社会研究部・准教授
 研究者番号：20280604

研究成果の概要：今日、世界レベルで経済ネットワークをもつ商人について、その経済活動の実態と歴史的背景に関する知見を深めることができた。とりわけ、さまざまな学的立場にある研究者が、ユーラシア大陸とアフリカ大陸の広い地域で「人の移動」を焦点にした情報を集積したことによって、「労働移動」という観念に陥りがちな今日の「人の移動」に関する研究について、発想の転換と新たな分析枠の構築の試みにいたることができた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2007年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2008年度	2,900,000	870,000	3,770,000
年度			
年度			
総計	10,000,000	3,000,000	13,000,000

研究分野：文化人類学・西アフリカ研究

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：移動、商業、宗教、文明、ネットワーク、アフリカ、ユーラシア

1. 研究開始当初の背景

現代の世界においては、排他性を過度に強調した宗教観にたつ文明論が人々の意識を緊張と対立へ導こうとしている。旧ユーゴ紛争、あるいはニューヨーク 9.11 テロなどに関する分析がその典型である。だが、現実の諸文明は、歴史的な相互交流と干渉によって自己形成を行ってきた相互依存的システムであり、さらに、この相互依存性をになうのが商業と宗教のネットワークであると、当研究代表者と参加者たちは考えた。

2. 研究の目的

グローバル化時代にますます盛んにかつ

可視化している「人の移動」という現象に注目して、その根源的な要因を追及することをめざした。それは、人類の歴史的経験と現代世界の諸現象を統合する試みであると同時に、諸民族の共存を射程に据えた超国家的な諸文明の相互依存性を、宗教と商業の相互補完的ネットワークから理解しようという試みである。

3. 研究の方法

文化人類学者、歴史学者、宗教社会学者、宗教学者が結集し、歴史人類学の理論と方法を用いて、「人の移動」にもとづく宗教と商業の相互補完的で広域なネットワークを調

査した。対象としたのは、西アフリカとアジア、旧大英帝国領の南部アフリカとイギリス、東地中海半島部、南・西アジアなどの諸地域におけるイスラーム、キリスト教、ユダヤ教、仏教、シク教、ヒンドゥー教などの諸宗教と商業のネットワークである。

具体的には歴史上に名を知られる広域で活動を展開していた商業民族と、かれらが帰依する宗教との関連を、上記地域を対象として、それぞれの研究者が調査をおこなった。

それによって、さまざまな学的立場から「文明の衝突論」の脱構築をはかり、諸民族の持続可能な共存に寄与することをめざした。

4. 研究成果

(1) 三島はアフリカの商業民ソニンケのネットワークの世界的拡大の実態を調査するための基礎として、まず人的交流を深めた。アメリカ合衆国ではソニンケ出身の研究者と情報を交換し、また在中国のソニンケ商人を日本での研究会に招聘した。さらに商業民族に関する比較研究の一環として、トルコのクルド商人について現地調査をおこなった。予定していたレバノンでの現地調査は、イスラエルによる侵攻で現地情勢が不穏になったため中止された。80年代におけるアフリカ商業民のアジアへの移動の中心となったタイのバンコクでは、ソニンケを中心とした移動と経済活動に関する最新の動態を調査した。また商業の歴史的継続性に関する比較研究の一環として、モロッコの市場の調査をおこない、サハラ以南のアフリカに広がったイスラームと市場のシステムに共通性があることを発見した。さらにソニンケのネットワークの世界的拡大の実態を確認するために、エジプトのカイロで実地調査を行った。その結果、ソニンケのネットワークの存在は確認できなかったが、おなじマンデ系に属する民族の集団がコミュニティーを作っていることがわかった。これらの調査によって、ソニンケの世界規模での移動地域の分布と特徴が明らかとなった。

(2) 保坂はインド、スリランカにおいて、中東への出稼ぎとイスラーム化との関係を調査したほか、国内においても商業活動と宗教、宗派の関係の基礎的な資料収集や情報交換をおこなった。その成果の一部は別紙の業績にあるとおり、商業活動と宗教倫理の関係性についての考察およびシク教の世界的な発展とその商業活動との関係などに関する研究として刊行された。またタイへ移動したシク教のコミュニティーに関する調査および資料収集をおこない、他の研究助成も合わせて、中国とベトナムにおいても調査を実施した。さらにマレーシアおよびタイにおいて実

地調査を行い、シク教徒を中心とする商業と民族移動の連続性について実態を把握した。マレーシアにおいては、当地のシク教の国際会議にオブザーバーとして参加し、またタイにおいては当地のシク教徒移民の歴史とその特徴について調査した。なかでも特に重要と思われる現象はインドで少数派のナム・ダリ派がタイにおいて大きな勢力を持つ事であり、一層の調査と解明が課題となった。

(3) 井野瀬は、国内での文献調査を行い、大英帝国のネットワークの理論的な解明を進めた。次に南アフリカと大英帝国との関連について文献調査を行った。さらに奴隷貿易における「人の移動」に関する文献調査をおこない、大英帝国に関する帝国観に対してアフリカ側からの分析を試みた。この成果は、別紙の業績にあるとおり、すでに単著として刊行されている。

(4) 新免は、バルカン半島地域におけるユダヤ人商人のネットワークについてトルコで調査をおこない、ムスリムからみたユダヤ商人像およびユダヤ商人のオスマン帝国における歴史的な役割の一端について考察を深めた。また地中海経済圏で重要な役割を演じていたユダヤ商人の痕跡を辿りつつ、現代の地中海経済の実状を調査した。研究の展開上、アフリカ側ではモロッコ、またアラブ・ヨーロッパ双方の接点としてマルタ島において調査をおこなった。最後に、かつてのメッカ巡礼の二大基地のひとつであるカイロをネットワークの歴史的連続性という観点から調査した。航空機の発達によってメッカ巡礼におけるカイロの意義は低下したものの、アフリカ内部におけるネットワークの結節点としての役割はなお大きく、近代都市として現在も重要であることが認識された。

(5) 海外共同研究者であるシセは、植民地時代にセネガルに移住したのち大きな経済力を持ち続けているレバノン商人の調査をおこなったほか、アフリカへの中国人の経済進出についても調査を開始した。シセは、前年度の研究成果の報告をかねて来日し、古代フェニキアの故地であったレバノン出身である商人の今日的な経済活動について、メンバーと有益な意見交換をおこなった。またアフリカへの中国人の経済進出の最新の情報についても報告した。

こうして世界レベルで経済ネットワークをもつさまざまな商人の経済活動の実態とその歴史的背景について、多くの情報と知見を得ることができた。それによって、宗教的な要因との関連性について考察を深めることができた。とくにネットワークの地理的拡大

と歴史的連続性をつなぐための重要な要因として宗教をとらえることによって、「人の移動」について発想の転換と新たな分析枠の構築を提示することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 31 件)

1. 三島禎子「アジアとアフリカを結ぶ貿易商人ソニンケ」和崎春日編著『来住アフリカ人の相互扶助と日本人との共生に関する都市人類学的研究』、査読無、刀水書房(印刷中)、2009 発行予定
2. 三島禎子「民族の離散と回帰」小倉充夫編『ブラックディアスポラ』明石書店(印刷中)査読無、2009 発行予定
3. 新免光比呂「東北ヨーロッパの宗教」『宗教の事典』(印刷中)査読無、2009 発行予定
4. 三島禎子「嗣ぐ 承ぐ 継ぐ 接ぐ①受け継がれる旅の営み(『異文化を学ぶ』)『毎日新聞夕刊』2月4日(2009)査読無
5. 保坂俊司「寛容思想の限界と思想の可能性」中央大学総合政策学部編『新たな政策と文化の融合』(中央大学出版会) pp. 339-356 (2009)査読無
6. 井野瀬久美恵「キリスト教ヨーロッパ世界における動物愛護思想の歴史的な文脈——イギリスを例として」秋篠宮文仁・奥野卓司編『動物観と表象』(ヒトと動物の関係学) 第1巻、岩波書店 pp. 69-91 (2009) 査読無
7. 新免光比呂「地域社会から読み解く『トルコ』文明の刻印と『近代』との背反——バルカン地域における民族宗教的対立と民族誌——」『比較文明』24、pp. 132-156(2009)査読無
8. 三島禎子「労働と宗教⑥イスラーム的働き方(『異文化を学ぶ』)『毎日新聞夕刊』5月7日(2008)査読無
9. 三島禎子「陸を越え海を渡ったモノ③アフリカへ渡った緑茶(『異文化を学ぶ』)『毎日新聞夕刊』8月20日(2008)査読無
10. 保坂俊司「日本人の宗教観の背後にあるもの」『麗澤大学ジャーナル』16(2)、pp. 37-70(2008)査読無
11. 井野瀬久美恵「イギリス近代とく起源神話——宮澤報告へのコメント——」(シンポジウム「近代日本の『神話』とナショナルリズム」九州国際大学『教養研究』第15巻第2号、pp. 41-63 (2008)査読無
12. 三島禎子「ソニンケ商人の歴史」池谷和信・佐藤廉也・武内進一編『新世界地理アフリカ I』朝倉書店、pp. 286-300(2007)査読無
13. 三島禎子「人はなぜ移動するのか—科学研究費補助金による研究：アフリカとユーラシアに展開する宗教と商業のネットワークに関する歴史人類学的研究」『民博通信』118、pp. 20-21(2007)査読無
14. 三島禎子「あるソニンケ商人の人生—アフリカからアジアへ」『月刊みんぱく』362、pp. 16-17(2007)査読無
15. 三島禎子「中国とアフリカの近い関係(『異文化を学ぶ』)『毎日新聞夕刊』12月12日(2007)査読無
16. 保坂俊司「衣食足りて礼節を知るは本当か? スリランカ調査報告から」小谷汪之編著『在家仏教』8月号、pp. 52-57(2007)査読無
17. 保坂俊司「仏教の盛衰」小谷汪之編著『南アジア史 2 中世・近世』山川出版社、pp. 96-101(2007)査読無
18. 井野瀬久美恵「その『距離』は何なのか? ——奴隷貿易廃止二〇〇年目の記憶」『学士会会報』866、pp. 27-31(2007)査読無
19. 井野瀬久美恵「なぜ『動物』だったのか? —イギリスの愛護意識の背後」『ヒトと動物の関係学会誌』19、pp. 28-34(2007)査読無
20. 井野瀬久美恵「現地人ミッション・エリートと教育の主体性—植民地ナイジェリアの中等教育問題を例として」駒込武・橋本伸也編著『帝国と学校』昭和堂、pp. 197-226(2007)査読無
21. 新免光比呂「周辺国家の悲哀—ルーマニアの教会合同にみる西欧化の圧力」『季刊民族学』No. 123、pp. 18-22(2007)査読無
22. 新免光比呂「ルーマニア宗教事情—西欧の影響と宗教対立」(他)六鹿茂夫編著『ルーマニアを知るための60章』明石書店、pp. 142-162(2007)査読無
23. 三島禎子「中国のアフリカ人ビジネスマン」『月刊みんぱく』346、14(2006)査読無
24. 三島禎子「アフリカン・プリントと商業ネットワーク」『特別展—更紗今昔物語—ジャワから世界へ』国立民族学博物館、pp. 92-93(2006)査読無
25. 井野瀬久美恵「女王は帝国の母だったのか?—サラ・フォーズ・ボネッタの物語を中心に」川本静子・松村昌家編著『ヴィクトリア女王—ジェンダー・王権・表象』ミネルヴァ書房、pp. 281-332(2006)査読無
26. 井野瀬久美恵「大英帝国と女性」河村貞枝・今井けい編『イギリス近代女性史入門』青木書店、pp. 252-268(2006)査読無
27. 井野瀬久美恵「『国民国家の論理』と『帝

- 国の論理』—その関係性を問い直す』『九州国際大学・経営経済論集』13(1・2)、pp. 147-161 (2006) 査読無
28. 井野瀬久美恵 「『ダロウェイ夫人』と帝都—ロンドンの記憶はいついかに喚起されたのか?」窪田 憲子編著『ダロウェイ夫人 (シリーズ・もっと知りたい名作の世界)』ミネルヴァ書房 6、pp. 48-64 (2006) 査読無
 29. 井野瀬久美恵 「奴隷貿易の過去と向き合うために—ブリストルからの手紙」『追手門経済論集』41(1)、pp. 219-233 (2006) 査読無
 30. 新免光比呂 「ルーマニアにおけるファシズム運動と知識人—レジオナル運動とフォークロア研究からみた 1930 年代—」竹沢尚一郎編『宗教とモダニティ』世界思想社、pp. 157-190 (2006) 査読無
 31. 新免光比呂 「サラエボと劣化ウラン弾—マルチなカレンダーを生きる陰で」『民博通信』113、pp. 29-32 (2006) 査読無

〔学会発表〕(計 5 件)

1. 三島禎子 「ボーダレス化を共有する宗教と商業」(講演) 国連大学グローバル・セミナー第 8 回沖縄セッション、2006 年 12 月 17 日、カルチャーリゾートフェストーネ (沖縄県)
会場名、開催日付の加筆要
2. 三島禎子 「アフリカ経済再考—移動する商人と民族文化」(講演) 国際交流基金 2006 年 3 月 6 日、ジャパンファウンデーション国際会議場 (東京都)
3. 井野瀬久美恵 「奴隷貿易廃止 200 年—都市戦略としての記憶の形」イギリス女性史研究会、2008 年 9 月 28 日、成蹊大学 (東京都)
4. 三島禎子 「ソニンケ商人に関する再考察—語りから現実を再構築する」日本アフリカ学会第 45 回学術大会、2008 年 5 月 24 日、龍谷大学 (京都府)
5. 三島禎子 「ソニンケ商人にみる経済活動と倫理」日本アフリカ学会第 44 回学術大会、2007 年 5 月 26 日、長崎ブリックホール (長崎県)

〔図書〕(計 7 件)

1. 保坂俊司 『仏教の盛衰に何を学ぶか』相国寺教化委員会、225 頁、(2008)
2. 保坂俊司 『ブッダとムハンマド—開祖でわかる仏教とイスラム教』サンガ、293 頁、(2008)
3. 保坂俊司編著 『2 時間でザックリわかる! 宗教問題の基礎』青春出版社、219 頁、(2008)
4. グリンダル・シン・マン (保坂俊司訳) 『シク教 シリーズ 2 1 世紀をひらく

- 世界の宗教』春秋社、207 頁、(2007)
5. 井野瀬久美恵 『大英帝国という経験 (興亡の世界史シリーズ・第 16 巻)』講談社、400 頁、(2007)
 6. 保坂俊司 『国家と宗教』光文社、229 頁、(2006)
 7. 保坂俊司 『戒名と日本人 あの世界の名前は必要か』祥伝社、275 頁、(2006)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.minpaku.ac.jp/research/sr/18401045.html>

(国立民族学博物館ホームページ)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三島 禎子 (MISHIMA TEIKO)

国立民族学博物館・民族社会研究部・准教授

研究者番号：20280604

(2) 研究分担者

井野瀬 久美恵 (INOSE KUMIE)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：70203271

新免 光比呂 (SHINMEN MITSUHIRO)

国立民族学博物館・民族文化研究部・准教授

研究者番号：60260056

(3) 連携研究者

保坂 俊司 (HOSAKA SHUNJI)

中央大学・総合政策学部・教授

研究者番号：80245274